

群馬県立太田工業高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅針盤			方 策	達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、90%以上である。	・学校行事や生徒会活動を通して、充実感や達成感を体験させる。 ・友人関係や教師との信頼関係をつくり、好ましい人間関係を育成する。	A	A	A	・達成状況は十分であるが、今後の課題も見つかっている。今年度の取り組みを次年度も引き続き継続し、今回見つけた課題を解決してもらいたい。 ・田園地帯に立地しているため、農業との連携を深め、農業の課題を工業の力で解決する、スマート農業に取り組んでみてはどうか。 ・工業の優れた設備を活かし、今後も活躍を続けてもらいたい。
		(2) 学校行事に主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。	・学校行事に積極的に参加し、クラス・学年への帰属意識を高める。 ・行事内容の工夫や参加等を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・学校行事や生徒会活動を通して、充実感や達成感を養う。	A	A	A	
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(3) 課題研究や専門科目に魅力を感じ満足している生徒が80%以上である。	・時代のニーズを捉え、各科の特性を重視し、専門科目の充実を目指す。 ・課題研究では、専門的な知識と技術の深化を図り、自発的・創造的な学習態度を育てる。また、プレゼンテーション能力を高め、伝えたいことを明確に表現できる能力を育てる。 ・ICTを効果的に活用し学習に対するイメージを磨かせることができるよう工夫をする。	A	A	A	・新学習指導要領が2年目となり、学習評価の付け方に職員の意識が変わってきたことがわかる年であった。評価の仕方だけでなく、グループワークやワークシートだけでなく授業の工夫をすることで、教科の特色、身に付けさせたい力を具体的に生徒に示せる授業を進めていきたい。 ・工業祭や球技大会などの学校行事の実施を通して、生徒の学校への帰属意識やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。特に工業祭は、感染症対策としてチケット制による開催であったが、多くの来場者を得て充実感や達成感を得る好機となった。 ・課題研究については、今年度は作品制作が中心であった。発表会では制作物の紹介が中心となり、生徒自身が何を考え、どのように思考を進めたか、上手く発表できないこともあった。次年度は新教育課程での課題研究となるので、3観点を意識した取り組みができるよう、工業科全体で情報共有や方策の検討をしながら進めていきたい。 ・生徒は各科の特色や自身の進路を見据えて資格取得に積極的に取り組み、高い合格率を維持できた。一方、工業科職員が減少する中で様々な業務も重なり、年々丁寧な指導が難しくなっている。生徒が主体的に学べるようICTを活用した資格指導方法について検討するとともに、指導する資格について精選していきたい。
		(4) 資格取得に積極的に取り組み、その指導も充実していると感じている生徒が80%以上である。	・各科の特色や進路を見据えて資格取得の重要性を認識させる。 ・職員が協力して効果的に指導し、合格率を高める。	A	A	A	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5) 朝学習に、積極的に取り組めたと感じている生徒が75%以上である。	・学校全体で「朝学習」に取り組み、基礎学力の向上と学習習慣の確立に努める。 ・学習成果の振り返り指導を組織的に行うことにより基礎力の定着を図る。	A	A	A	・学習意欲は高まっているので、今後は応用する力を育成する指導に注力してもらいたい。一方、学力をはじめとする生徒の多様性にかつてに比べ高まっているので、基礎学力、応用力のどちらかに偏らないよう、バランスよく指導してもらいたい。 ・学習全般に意欲的であり、学習に対するモチベーションも高いと感じる。今年度の取り組みを継続してもらいたい。 ・外部講師を活用するなど、企業をはじめ外部の教育力を活かすことを通じて、生徒の成長を促進してもらいたい。 ・ALTの活用を推進し、外国語学習を充実させてもらいたい。
		(6) 興味・関心を引き出し、授業がわかりやすいと感じている生徒が75%以上である。	・授業展開や生徒の実態に応じて、グループワークやプリント教材、ICT機器を効果的に活用する。 ・分かりやすい授業や双方向の授業を展開する工夫・改善に努め、学習意欲を高める。 ・生徒の興味や関心等を学習活動に取り入れ、コミュニケーション能力を高める。	A	A	A	
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が75%以上である。	・シラバスを活用し、学習の進捗や授業の進め、評価の観点を中心に生徒に伝え、学習意欲を引き出す。 ・授業アンケートを活用し、生徒の実態にあわせた授業を展開する。	A	A	A	
		(8) ものづくりや専門技術への興味・関心を高めさせ授業・実習に満足している生徒が80%以上である。	・産学連携による労働基準監督署・企業との連携を強める。特に1学年の安全教育を実施し、工業で学ぶ上での安全意識・知識を早期の段階で定着させる。 ・工場見学や専門学科講師派遣事業などを通して、ものづくりの興味を深める。 ・企業と連携を図りインターンシップを実施し、高い専門知識と職業観を醸成する。	A	A	A	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 基本的な生活習慣が身に付いている(あいさつ・遅刻・提出期限など)と認める生徒が80%以上である。	・基本的な生活習慣の定着が学校生活の充実につながることを、生活指導を中心に機会を設け、指導する。 ・毎日、授業の開始・終了時や通路・廊下等で生徒に積極的に声をかけ、あいさつの習慣化を図る。	A	A	A	・SNSについて、家庭でも話題にして、注意している。学校と連携して、生徒の意識を高めたい。 ・スマホ等の利用については、家庭の関わりが重要である。地域と家庭など、様々な立場で協力して、情報共有する必要がある。 ・LGBTQについては、スラックスを履く女子生徒も多く、対応は進んでいるといえる。当初は見慣れないことから違和感を感じたが、現在では当たり前になっている。また、校則の見直しに伴い、男子・女子という表記はなくしている。 ・様々な背景を持っている生徒が増加しているとのことなので、必要であれば、児童相談所など外部と連携をとりながら指導してもらいたい。
		(10) 学校は安全な環境づくりや校内美化に心掛けていると感じている生徒・保護者が70%以上である。	・日々の清掃活動を積極的に進める体制をつくる。 ・定期的な安全点検チェック表を確認し、改善を目指す。 ・危険を伴う場面や場所等を意識して安全に配慮して活動を行なう。	A	A	A	
	6 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	(11) 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると感じている生徒が80%以上である。	・いじめの未然防止を目指し、SCや特別支援コーディネーター、教育相談を活用し組織的に取り組む。 ・普段から生徒の表情、言動、態度に気を配る。また「生活振り返りアンケート」・「SOSシート」を計6回実施し、内容を精査する。 ・生徒、教員の人権意識を高め、いじめを見逃さない許さない雰囲気を作る。いじめの対応では組織的に迅速な対応を図る。	A	A	A	
		(12) 学校は生徒がSNSやインターネットの危険性や正しい利用方法について学ぶ機会を作っていると感じている生徒が80%以上である。	・SNSに頼らない人間関係づくりを目指し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 ・スマホルールづくりを通してSNSやインターネットの危険性を理解させ、正しい利用方法を学ばせるなどICTリテラシーの向上を図る。	A	A	A	
		(13) 1日平均の遅刻者数は全校生徒の0.8%以下である。	・家庭との連絡を密にするなどにも、教育相談や健康相談を充実させる。 ・10分前登校をすすめ、余裕ある通学をさせる。	A	A	A	
7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(14) 生徒の健康面に配慮した指導を評価している生徒が80%以上である。	・生徒の健康面に配慮し保健便り等を定期的に発行して健康管理の啓発に努める。 ・新型コロナウイルスやインフルエンザ、熱中症対策等、予防や事後対応を迅速に行なう。	A	A	A		
	(15) 部活動が充実していると評価している生徒が80%以上である。	・部活動オリエンテーション、学年集会等を通じ加入を呼びかける。	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	(16) 時期や内容に則した進路情報を提供していると感じる生徒が80%以上である。	・「進路の手引き」を活用し、進路のルールや手続きについての情報を周知する。 ・「進路だより」を定期的に配布し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供する。 ・学年別懇談会等において、外部講師による進路講話等を実施し、保護者の意識向上を図る。	A	A	A	・1年生は4月に「進路の手引き」を配布。3年生は1学期LHR等で進路進め方を説明の際に、1・2年生は3月の進路ガイダンスでの活用を予定している。 ・「進路だより」を7月に配布し今年度の進路の状況報告を行った。今後も最新の進路情報が提供できるよう取り組みたい。 ・1・2年生対象のガイダンスを3月に実施する予定で準備を進めている。ガイダンスの実施に向け組織的に取り組めるよう準備する。 ・朝学習で実施しているキャリアパスポート・ノートの問題点や課題について聞き取りを行い、改善に取り組む。 ・インターンシップについては、本年度より2年生全員を対象に行った。昨年度までとは違う形になったので改善点も把握し来年度につなげたい。 ・生徒に様々な進路の情報を提供するとともに、保護者にも情報共有をしてもらい、進路実現に備えてもらう。 ・生徒はChromebookを活用して、各企業の業務内容や製品情報を調べた上でインターンシップ先を選択することができた。そうして選択したインターンシップ先での経験は、生徒の職業観・勤労観の育成につなげることができた。また、今年度はGoogleFormsを利用して、企業とのやり取りや生徒の希望調査を行った結果、効率的にインターンシップ関連業務を行うことができた。次年度は、朝学習やLHRの活用等、より計画的にインターンシップを進めていきたい。
		(17) 3年間計画立ててキャリア教育の推進のため、進路行事等が充実していると感じている生徒が80%以上である。	・進路ガイダンス(大学、企業等)やガイダンス(進学・就職説明会)を実施する。 ・キャリア教育について考える機会として、キャリアパスポートとキャリアノートを朝学習の時間で定期的に取り組む。	A	A	A	
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(18) 自分の進路適性を考え進路実現に向け積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・「進路だより」を活用して、最新の進路情報を提示する。進学希望生徒には進学費用なども情報提供して理解を求める。 ・進路適性の理解や職業観・勤労観を育成に役立つ職場体験(インターンシップ)への協力を企業に働きかける。	B	A	A	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19) 学校の教育活動を理解してもらうために、PTA総会や学年別懇談会の参加率は、60%以上である。	・懇談会の内容を工夫して、参加率を向上させる。 ・欠席者に配布物を配り、欠席者対象の2次懇談会を実施して、本校の教育活動の周知を図る。	B	A	B	・課題研究で制作した、学校を再現した3Dモデルは素晴らしい仕上がりである。ぜひ学校のWebページに公開してもらいたい。 ・太工フェアや工業祭も評価項目に入れてはどうか。 ・工業祭などは、子供の学校での様子を知る良い機会となった。 ・地元自治体に学校の様子をまとめて回覧すると、さらに学校への理解が深まる。
		(20) Webページを5月5日以上更新して学校は広報活動に努めている。	・生徒の日常の活動を保護者や中学生向けに編集し、随時発信する。 ・学校の随時行事を迅速にアップし、写真や、意見等を盛り込み興味関心が高まるように内容を工夫する。	A	A	A	
		(21) 学年通信や学級通信を年3回以上発行している。	・学年主任を中心に学年団が協力して発行する。	A	A	A	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	(22) ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	・パワーポイントや動画等を活用し、わかりやすい授業を行う。 ・クラスルームやフォームを活用し、生徒が主体的に取り組むよう工夫する。	A	A	A	・授業の内容に合わせて、板書、スライド、実物を効果的に使い分け、試行錯誤しながら、生徒の実態に合わせて活用してもらいたい。 ・GSNメールは、重要な連絡を直接親が得ることができ、さらに、子供との会話の糸口になるので、活用を推進してほしい。
		(23) 学習端末を授業時間の30%以上利用している。	・指導内容により積極的に学習端末を活用している。 ・職員同士で活用方法に関して情報を共有したり研修を行い資質向上に努める。	B	A	A	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(24) ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	・GSNやクラスルームを活用し、保護者にも積極的に発信し、教育活動の理解と関心をうながす。	A	A	A	
		(25) オンラインによるアンケートを5回以上活用している。	・オンラインによるアンケート調査により迅速で的確なアンケートを積極的に進め、生徒の実態把握に努める。	A	A	A	